

「区における行政への参加の考え方」検討の方向性に関する説明会 区民会議委員経験者からの主な意見（多摩区）

1 開催状況

- (1) 日 時 令和2年12月22日(火) 18:30～20:00
- (2) 会 場 多摩区役所 1101 会議室
- (3) 参加者 11名

2 実施概要

1. 開会
井川区政推進課長から挨拶した。
2. 「区における行政への参加の考え方」検討の方向性の説明
配布資料に沿って、説明した。
3. 質疑応答
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換した。
4. 閉会

3 意見交換の内容（要旨）

- (1) これまでの流れの中で、市民自治がちゃんとできていなかったのではないかと。市民自治ということについて、市民がちゃんと自覚しているのかが、あやふやな感じがある。

「市民創発」という言葉が一人歩きしていて、上から(役所)降りてきた言葉なので、その言葉の意味は何か。そういう意味では、市民自治を基礎から学び直す必要がある。

構成メンバーの例に、町内会・自治会や関係団体の代表者と書かれているが、それでは、これまでと変わらないのではないかと。

事務局はどこが担うのか。区民が担うのか、それとも行政か。計画自体があやふやなので、コーディネートは誰がするのか。コンサルによっても力量に差があると思う。

(市民文化局区政推進課)

市民自治を学び続けるという点については、永遠の課題ではないが、試行錯誤しながら、市民側から見た市民自治と、行政から見た時の住民自治のあり方としての市民の方からの意見を、受け止めて、具体的なものにどう反映していくのか。

元々区民会議が担ってきた市民自治における役割としては、行政を進めていく上で、制

度保障していく。これまでの成果と課題を紐解きながら、やっていくことと、この取り組みは、自治基本条例に位置づけられているので、その理念は持ちつつ、どう運用していくかにチャレンジしていきたい。今回、示したのも、あやふやな部分があるので、より具体的な例にしていく中で、皆さんにもご意見をいただきたい。

市民創発という言葉については、協働という言葉はある意味では置き換えていると考えているが、言葉遊びにならないようにしていきたい。

構成メンバーは、例を挙げているが、限定しているわけではなく、必要なメンバーに集まってもらおう。これまで区民会議には、枠があったが、できるだけ多くの人に参加してもらいたいので、色々なパターンでやれるようにしていきたい。

事務局については、行政に参加していただくことから、区役所を想定しているが、他区でも、区民が入った方が良いのではないかという意見もあったところである。

- (2) 課題が成果に結びつかなかったところを、しっかりと検証した方が良い。これまでの区民会議は、委員の能力や資質の問題、行政のスタンス、コンサルの能力、メンバーの問題などによって、難しさがあったが、1番の問題は、課題設定だと思う。川崎市は、150万人いて、7区の独自性がどこまであって、均一な制度の中で運営されている中で、何ができるのかというところで、金縛りにあう。そういった中では、各区において、何がふさわしいテーマなのか、行政側で議論してほしい。

(市民文化局区政推進課)

これまでの区民会議でいうと、課題設定について、行政側が提示するのではなく、区民で意見交換していただきながら、やってきた。各区を回った中で、テーマ設定をどうするかは問われている。まず、行政でテーマ設定してほしいという意見がある一方で、行政にやられては困るという意見もあったところである。その時に、事務局に区民が入った方が良いのではという意見があり、行政目線でやられては困るという方の意見もある。ものによっては、行政側から提示することになると思うが、市民活動団体や町内会・自治会がやっている活動を、より発展させたいとか、テーマによって取るべき場の設定の仕方が変わると思う。

- (3) 区民会議とまちづくり協議会は似たところがあるが、1番大きな違いは、区民会議は提言するだけで、委員の方はほとんど実行には参加しないので、歯がゆい部分があった。環境問題などは区で取り扱えないからといって、テーマにしてもらえなかった。まちづくり協議会は、課題を持った人が参加していて、どんな課題があるかを聞き取って、その中から審議して、適当なものをピックアップしてやっていた。区民と行政が混合でやって、テーマを抽出をしてはどうか。

また、活動費が出るのか。

(市民文化局区政推進課)

例えば、共同事務局のように事務局を回す時に、必要であれば、予算要求をしていくことになると考えている。そのため、すべてがボランティアではないと思う。これまでの区民会議の時は、謝礼を支払っていたが、条例設置の委員であるから、そういう仕組みになっていたが、会議の回数が制限されるなど、形式的になってしまうので、固定的なしくみではな

いお金の支出方法を検討していきたい。

課題抽出は、色々なやり方があると思っていて、テーマを持っている方からテーマを集めるやり方もあるし、どういうやり方から着手していくか。それが、試行の2年間でどういう仕組みがあるか、一回一回見直しをしながら、やっていきたい。

(4) 区民会議やまちづくり協議会には限界があり、超高齢社会の中で、山積する課題を解決していくためには、区民による区民のための区民の自力によって、行政の不足分を補いながら、区民全員参加の協働型社会の実現ということによって、解決していこうという総動員体制で取り組むべきだと思う。行政の財政、人事の課題を解決するためには、総動員体制しかないと思う。誰がやるんだではなく、自分たちがどうするんだという原点に立ち返り、行政もできないことは正直に打ち出し、1つになってやっていくことが大切だと思う。

(5) 区民会議では、地域課題を抽出するということで、色々な分野の方で議論したが、地域課題というのは、もっと下におろしていかないと現実の問題解決にならない。区の中でも、物理的条件やニーズも違う。区民会議の委員で話す一般的な意見となり、それを具体的にいかに地域におろしていくか。各地域によって課題が違うので、一般論でいうと、抽象論で終わってしまう。その地域における課題を具体的に解決するのを、行政がサポートしていき、成功例を作り、それを水平展開していくと良い。

(市民文化局区政推進課)

(4)(5)について、コメントしたい。市民総動員体制というのを行政側から言ってしまうと、行政の負担を市民にやらせるのかという跳ね返りがある。参加の場のあり方についても、課題抽出から、実践まで全部やるとなると限界がある。参加の場をどう持つのかが、行政の役割だと思っている。

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の中でも、より小さな単位でやっていくことも重要と記載している。参加の場で解決しようとするのが難しいので、より小さな単位でいうと、ソーシャルデザインセンター(以下、「SDC」という。)や「まちのひろば」などの核を作っていく、そういうところにどうやって地域として入っていくか。参加の取り組みだけでなく、行政として地域にどう入っていくかというのは、いただいたご意見を踏まえ、進めていきたい。

(6) これまでの区民会議は、達成感がなかった。区長に提言をしてというだけでは、実行されず、机上の空論で、無駄な会議だと思った。今回、小さな単位で色々な人に参加してもらうという試みは良いと思う。ただし、テーマを1つ決めると、そのテーマの専門家が集まってしまい、その場を牛耳ってしまう懸念もある。

まちの中で人と話をしない、したくない人はたくさんいるので、その人たちにどうやってコミュニティに参画してもらうのか。それぞれの団体が色々良いことをやってはいるが、クローズな状態である。何をやったら、主体的に参画してもらえるのかというのは、難しいといつも感じているところである。

(7) これまでの区民会議に参加している人は、高齢者が多かった。

構成メンバーについて、自分の住んでいる自治会も全員70歳以上であり、そのような人でやると、また同じようなメンバーで区民会議をやることになってしまう。同じ課題であっても、年齢層によって、意見が違ってくる。年齢層を考えるのであれば、テレワークなどでZoomなど使っているので、オンラインを活用してはどうか。

これまでの区民会議は、提案したものに予算がない。各区には、確か予算が3,000万円くらいあったと思う。それを使うには、実行委員会がやっていくが、そこになってこないとお金がいくら使えるというのが出てこない。区民会議の中で、この提案に対していくら予算がつくとならぬと具体的な意見も出てこないと思う。

(8) まちが繁栄して豊かにならなければ、このような会議をやっても、町会長は大変だと思う。世界中が混沌としている中では、こういう悠長なことをやっているよりも、専門家を呼んで、各町内会に意見を聞いた方がよい。

(9) これまでは企画課が中心になって、進めていたと思うが、今回の提案は、事務局に区民の人の中で、優秀な人を入れてもよいのではないか。

テーマの大小や色々な分野がある中では、絞り込むのが難しいので、中心となるグループを作ってもよいと思う。

SDCが立ち上がったが、そこに至るまでの昨年の検討会はひどかった。会議の進め方など、様々な問題があったので、ああいうことは2度とやってほしくない。

能力がある人であれば、年齢は関係ないと思う。

(10) これまでの区民会議とあまり変わらない印象を受けた。もし、区民会議が継続していたら、資料に記載のある課題が成果に移っていった部分もあると思う。決して、以前が悪いようには思えない。

これまでの区民会議は年齢層が偏っていたというのは感じる。その世代によって、それぞれ課題は違うと思うので、年齢層は多岐にわたった方がよいと思う。

(11) 会議を集まってやるのは大変なので、若い人はグループLINEやホームページ、Zoomなどを活用している。そういう意味では、高齢者と若い人の捉え方は違うので、そういった仕組みを作ってはどうか。

(市民文化局区政推進課)

(6)～(11)について、コメントしたい。提言がどう具体的成果につながったのかということについては、見える化できていなかった部分もあったと思う。これからも、達成感があるような仕組みを作っていきたい。

知らない、知ろうとしない人に来てもらうというのは、永遠のテーマである。例えば1つの仕掛けとして、無作為抽出で連絡をして、そこで手上げをしてもらうという取り組みもチャレンジしていきたい。

オンラインにも、チャレンジしていくが、役所の中も環境整備しているところである。3月の説明会でも、人に集まっていただくのは難しい状況だと思うので、リアルの会場は作るが、オンラインの活用を検討している。

一目で能力がある人かどうかというのは、わからないので、より多くの人に参加してもらうことと、手上げの中で、そういった方と手を取り合いながら、進めていきたい。能力は年齢で左右されるものではないと思うが、多様性は必要だと思うので、年齢、職業、住んでいる地域、抱えている課題など様々な背景の方々に集まっていただくことが重要だと思っている。